文化功労章

本章は、文芸、技芸、美術・工芸、学芸、教育、民生・社会福祉、農林業・漁業、産業及び保健衛生等の各分野における、本県文化の向上発展に卓越した功績のある個人又は団体の事績を称えるものです。

秋田県文化功労者賛歌

作　詞　相　場　信太郎
作　曲　小野崎　晋　三

はえある日　　きょう　　われらいま
　　郷土秋田に光かかげし　　人らを祝う
いく年月(としつき)ぞ　　ひたすらに文化を求め
　　つよき心と力が生みし　　大いなる道
ああたぐいなきいさおし　　賛えてわれら
　　あすの秋田をきずきゆかん

平成30年（第63回）秋田県文化功労者

（年齢順、敬称略）

学　　芸	（郷土史の研究）	黒澤三郎
民生・社会福祉	（社会福祉の向上）	佐藤　夙
教　　育	（教育の振興）	湊　三郎
保健衛生	（食生活改善の推進）	鈴木組子
学　　芸	（文化財の研究・保護）	冨樫恭時
技　　芸	（箏曲の普及・発展）	足達清賀 （本名　市川　静子）
産　　業	（地域産業の振興・発展）	齋藤作圓
美術・工芸	（陶芸の振興・発展）	故　平野庫太郎

郷土史の研究

くろ　さわ　さぶ　ろう
黒　澤　三　郎

（90歳）

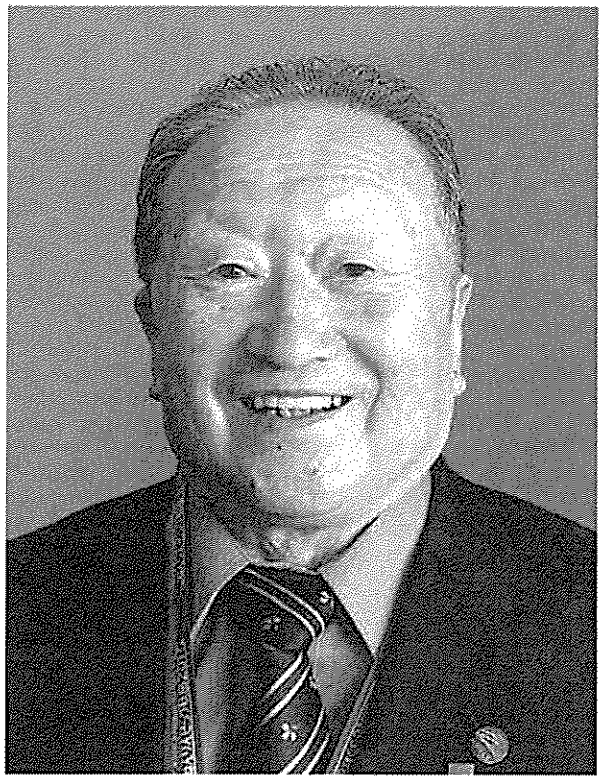
住　所　　大仙市

約50年にわたり、東北最大級の国指定史跡「払田柵跡」発掘調査に協力するとともに、遮光器土偶の発見に至った「星宮遺跡」発掘の端緒を開いた。

後藤宙外翁碑並びに菅江真澄標柱の建立のほか、国指定名勝「旧池田氏庭園」の指定に至るまでの環境整備や古文書整理など、本県の極めて希少な歴史文化資産の保存継承に大きく寄与した。

大仙市内に点在する古文書や行政文書等について、100年後の世代に受け継ぐ重要性を提言し、東北地方の市町村では初となる公文書館「大仙市アーカイブズ」開設（平成29年）の実現に大きく貢献した。

全県的な史料の研究活動にも尽力し、高い識見と精力的な研究活動は、全県的に見ても後進の範となるものである。



社会福祉の向上

佐藤（さとう）　孜（つとむ）

（88歳）

住　所　　秋田市

昭和36年の秋田国体開会式でのマスゲームの準備と実演指導にあたるとともに、民泊割り振りの調整なども担当し、大きな成果を上げた。

昭和51年に本県で開催された「第30回全国レクリエーション大会」においては、事務局長として企画運営に献身的に尽力し、全国に「生きがいをつくるレクリエーション」を強く発信する原動力となった。

平成13年の秋田ワールドゲームズ2001においては、準備段階から組織委員会の常務理事として運営活動に粉骨精励し、大会の成功に貢献した。

全国健康福祉祭（ねんりんピック）の本県選手団長を連続22回務め、特に平成29年の秋田大会では、26種目において約１万人の選手が競う中、本県選手団を10種目で優勝や準優勝に導いた。

教育の振興

みなと　　さぶろう
湊　　三郎

（85歳）

住　所　　秋田市

昭和63年から平成21年までの間、秋田県算数・数学研究会会長として、学術研究に加え、教員養成、教師教育において今日の秋田の数学教育の基盤を作った。

平成13年から22年にかけては、秋田県算数・数学フェスティバル実行委員長として、それまで全国的に例のない学校と民間の協働による「数学文化普及草の根運動」に貢献した。

数学教育における情意領域（数学に対する態度等）と学力との関係に関する研究や、数学教育の実践・研究への数学観の導入などの研究に努め、これらの成果を本県学校教育の実践に活かし、算数・数学の学力を全国トップレベルに高めることに貢献した。

半世紀にわたって数学教育の基礎的研究に専心し、創出した新観念や新手法を算数・数学教育の実践に適用して、我が国の数学教育に革新をもたらした。

食生活改善の推進

すずき　くみこ
鈴木　組子

（84歳）

住　所　　潟上市

自身の知識や経験を住民の健康づくりに還元するため、食生活改善推進員として地域に密着し、地域住民の目線に立った食生活普及活動を実践してきた。

本県の健康課題である「食塩の過剰摂取」の改善のため、寸劇集団「ぜんまい座」を立ち上げた。自ら作成した脚本に込められた「食塩の過剰摂取と生活習慣病」「塩蔵品などの高食塩含有食品」「汁物は１日２杯まで」「うすあじの調理方法」などの減塩のためのキーワードやノウハウは、地域住民の共感が得られるものであり、様々なイベントで上演されたことにより広く県民に認知されるなど、独創的な活動に取り組み、食生活改善の推進に貢献した。

平成23年に本県で開催された、「第12回健康日本21全国大会」では、ホスト県の食生活改善推進協議会会長として、本県の食生活改善活動を全国へアピールし、大会を成功に導いたほか、同協議会会長退任後も、地元町内会の小規模なサークルやグループで活動を続け、自らも楽しみながら食生活改善の伝達活動に尽力している。

文化財の研究・保護

と　がし　やす　とき
冨　樫　泰　時

（78歳）

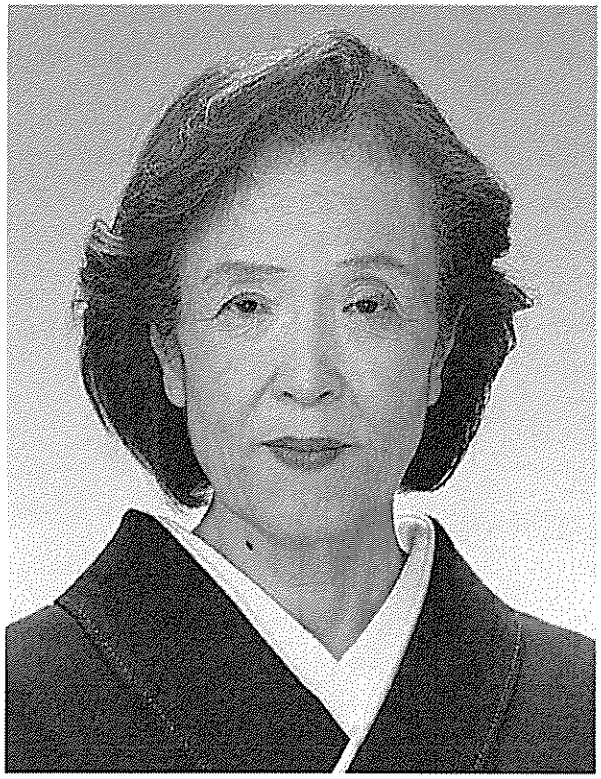
住　所　　秋田市

本県の遺跡発掘調査及び考古学研究の第一人者であり、県内の遺跡発掘や出土遺物の考古学研究に取り組むとともに、多くの著書、論文を発表し、全国的に高い評価を受けている。

県立博物館、県埋蔵文化財センターの開設に携わり、館長、所長を歴任するなど、文化財保護体制の整備充実に尽力した。

昭和50年代以降、秋田市史、本荘市史など広く県内市町村史の編纂、執筆に携わり、平成元年以降は多くの史跡の保存と環境整備に係る指導委員会等の委員を務めたほか、県や市町村の文化財保護審議会委員、又は会長として、文化財保護行政の推進に貢献した。

考古学研究の成果と本県文化財保護行政における業績が、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産認定に向けた活動の礎となるなど、本県文化の県内外への発信に貢献している。



箏曲の普及・発展

あだち　せいが
足　達　清　賀
（本名　市川（いちかわ）　静子（しずこ））

（75歳）

住　所　　秋田市

３歳にして箏の道に入った後、日本邦楽界を代表する箏曲演奏家に師事するなど、70年以上にわたり研鑽を重ねている。

県内三曲会派である生田流箏曲清絃会の三代目家元として、後進の育成に努めるとともに、平成３年から秋田県三曲連盟副会長、27年から同連盟会長として三曲音楽の発展・振興に尽力するなど、本県の文化向上に貢献している。

「ウィーン国際音楽祭」、「ハワイさくら祭」のほか、ドイツ、スペイン、イタリアなどにおける海外公演に出演し、秋田の地で育んできた日本文化をアピールすることで、文化の国際交流に貢献している。

東京交響楽団など、異なるジャンルとの共同公演を実現させ、高い評価を受けている。

県内の小・中・高校及び大学において、長く授業などを担当し、音楽指導を続け、日本古来の伝統音楽への理解と普及のため精力的に活動を展開している。

地域産業の振興・発展

さい　とう　さく　えん
齋　藤　作　圓

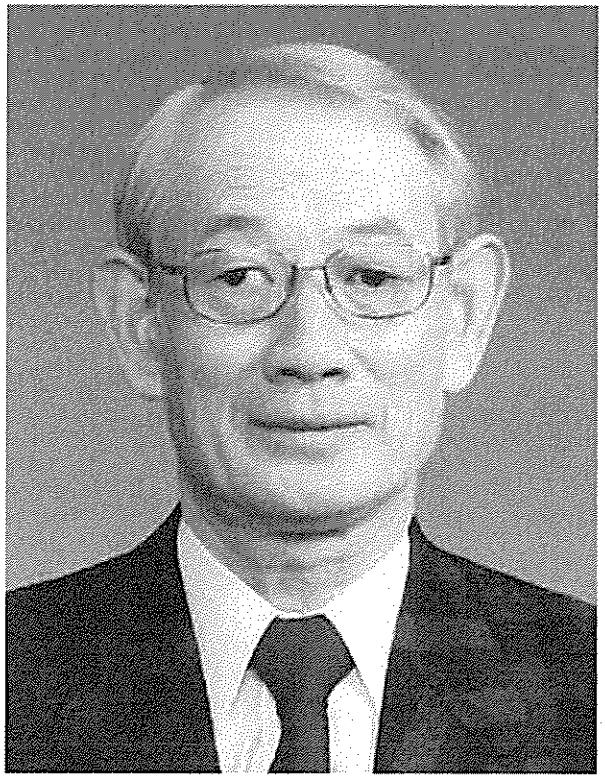
（74歳）

住　所　　由利本荘市

「農事組合法人秋田ニューバイオファーム」を設立し、オランダでの農業研修を経て施設型農業を導入することで経営革新を図り、雇用拡大や担い手育成の取組による承継可能な農業経営のモデルケースを作った。

「農業の六次産業化」にもいち早く取り組み、きりたんぽの加工に乗り出したほか、由利本荘市がどぶろく特区の認定を受けたことを機にどぶろく製造にも挑戦するなど、本県農業の六次産業化のさきがけとなった。

県内有数の観光施設として知られるハーブのテーマパーク「ハーブワールドＡＫＩＴＡ」を開園し、「観光農業」という新たなジャンルを開拓するなど、観光分野の発展にも尽力している。



陶芸の振興・発展

故　平　野　庫太郎（ひらの くらたろう）

（享年72歳）

住　所　　秋田市

陶芸家として練り込み技法、釉薬（ゆうやく）表現技法に優れ、日本伝統工芸展で入選するなど、その作品は国内において高い評価を得ている。加えて、ろくろ成形技術にも秀でており、秋田県優良技能者表彰などを受賞している。

創作活動の傍ら、県工芸家協会会長、県立美術館館長などの要職も務め、秋田県の工芸界の発展に多大な貢献をしてきた。

秋田公立美術工芸短期大学在任中は、若手の育成指導に努め、多くの工芸人材を輩出するとともに、学生のインターンシップ受入先として地元工芸家の開拓、拡充を図るなど、地元工芸界と美術大学との連携を強力に推し進めた。